長野市の埋蔵文化財第65集

浅川扇状地遺跡群

――牟礼バイパスＢ地点(2)　若槻警察官派出所庁舎新築事業に伴う調査――

１９９４・３

長　野　市　教　育　委　員　会

序

社会生活の変化と共に「物の豊かさ」から「心の豊かさ」が求められる今日、文化財は現代人の心の糧として欠くことのできぬ、貴重な国民的財産であると考えます。

特に埋蔵文化財は、直接大地に刻み込まれた歴史であり、当時の物質文化のみならず信仰・宗教等の精神史など、文化の始源をも内包する基準資料であり、埋蔵文化財そのものが歴史・文化を考えるうえでの実証者といえましょう。

このたび若槻警察官派出所庁舎新築事業にともない、浅川扇状地遺跡群の発掘調査を実施いたしました。

事業予定地周辺は過去の調査で重要な埋蔵文化財が発見されており、古代史研究上注目されていた地域であり、今回の調査でも多大な成果が得られました。本書はその成果を要約し、長野市の埋蔵文化財第65集として報告するものです。この報告書が地域古代史の解明や文化財保護の一助として、学術的に関係各方面に広くご活用頂ければ幸いに存じます。

最後に発掘調査から報告書刊行にいたるまで公私にわたり多大なご援助・ご指導を賜りました関係諸機関ならびに各位に心からお礼申し上げます。

平成6年3月

長野市教育委員会　教育長　滝澤忠男

例　　言

1　本書は若槻警察官派出所庁舎新築事業に伴い実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　調査は長野県警察本部長の委託を受けて、長野市教育委員会が実施した。

3　調査地は長野市大字若槻東条字川原1038-1に位置する。調査地は昭和59年度に調査が実施された浅川扇状地遺跡群牟礼バイパスＢ地点遺跡と同一の遺跡である可能性が高く、便宜的に今回も牟礼バイパスＢ地点遺跡として報告するが、遺跡範囲等の確定に伴い将来的には旧字名等を中心とした正式な遺跡名称の付与が必要となろう。

4　本書は矢口の指導のもとに千野が執筆・編集した。

5　調査によって得られた諸資料は長野市教育委員会（長野市埋蔵文化財センター）で保管している。

6　本書は調査によって確認・検出された遺構・遺物を中心に、その基本資料を提示することに重点を置いた。資料掲載の要領は下記の通りである。

・資料は検出されたものの中から、時期の明確に把握しうるものを中心に掲載した。ただし特殊なものはこの限りではない。時期・性格等不明瞭なものは資料掲載の対象から外したが、これらに関しては図面・出土遺物等閲覧し得るように保管してある。

・遺構の測量は（有）写真測図研究所に委託し、コーディックシステムにより１：20の縮尺で基本原図を作成し、本書では基本的に１：60の縮尺に統一してある。ただし遺物出土状況等微細を要するものに関してはこの限りではない。

・遺物実測図に関しては基本的に土器１：４、土器拓影１：３に統一してあるが、その他のものについては適宜縮尺を明示してある。

目　　次

例言

第１章　調査経過……1

1　調査に至る経過……1

2　調査体制……1

第２章　調査地周辺の考古学的環境……5

第３章　調査……7

1　調査概要……7

2　遺構と遺物……7

挿図目次

図１　調査地位置図

図２　牟礼バイパスＢ地点遺遺構配置図

図３　調査地周辺の遺跡

図４　調査地基本土層序

図５　調査地全測図①

図６　調査地全測図②

図７　出土土器実測図

第１章　調査経過

１　調査に至る経過

調査対象地は果樹園として利用されており、調査地東側を通過する主要地方道長野荒瀬原線建設以前の調査地周辺は、両脇を農業用水路にはさまれる形となった幅50ｍ前後の丘陵様地形を呈していた。

平成５年、長野県警察本部は警察官派出所の適性配置計画に伴い、長野市大字若槻東条字川原１０３８－１他の地籍に鉄筋コンクリート造平家建延床面積135,99㎡の、若槻警察官派出所の庁舎新築計画を立案した。

事業予定地は周知の「浅川扇状地遺跡群」の範囲内に位置し、また昭和59年主要地方道長野荒瀬原線道路建設事業に伴って発掘調査が実施された、牟礼バイパスＢ地点遺跡に隣接することから、長野市教育委員会は長野県警察本部の委託を受け事前に埋蔵文化財の有無を確認するために試掘調査を実施することになった。

試掘調査は平成５年11月24日に、事業予定地内の任意の地点２か所について実施した。両地点における土層堆積状況はおおむね一致し、現地表下30ｃｍ前後に存在する黒褐色粘質土層が遺物包含層と認定された。

この結果より、事業着手に当たっては掘削等の工程により埋蔵文化財に破壊の及ぶ可能性の高い約200㎡について、記録保存を前提とした発掘調査の必要性が確認された。

本調査は長野市教育委員会と長野県警察本部との発掘調査委託契約のもとに平成５年12月15日より12月22日までの実質５日間にわたって実施した。

２　調査体制

調査主体者　長野市教育委員会教育長　滝澤忠男

総括責任者　長野市埋蔵文化財センター所長　荒井和雄

庶　務　係　　所長補佐　山中武徳

職　　員　青木厚子

調　査　係　　所長補佐　矢口忠良

主　　査　青木和明

主　　事　千野　浩

主　　事　飯島哲也

専門主事　太田重成

専門主事　羽場卓雄

専門主事　清水　武

専 門 員　横山かよ子

専 門 員　中殿章子

専 門 員　笠井敦子

専 門 員　山田美弥子

専 門 員　寺島孝典

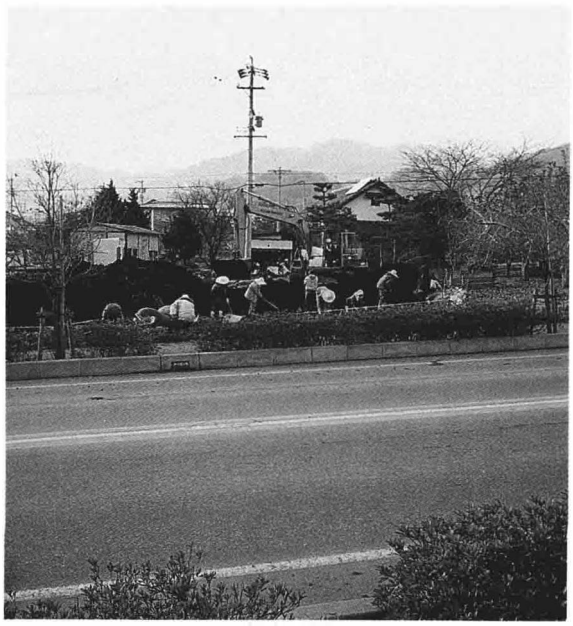
専 門 員　西沢真弓

調査参加者

小林三郎　酒井　秀　小林紀代美　鈴木友江　佐藤はま　中山やす子　佐藤幸子　横山ふぢ江　小林志げる　佐藤君江　小林さと　宮沢芳美　宮沢けさよ

整理作業参加者

岡沢治子　徳成奈於子　池田見紀　向山純子　西尾千枝



調査風景

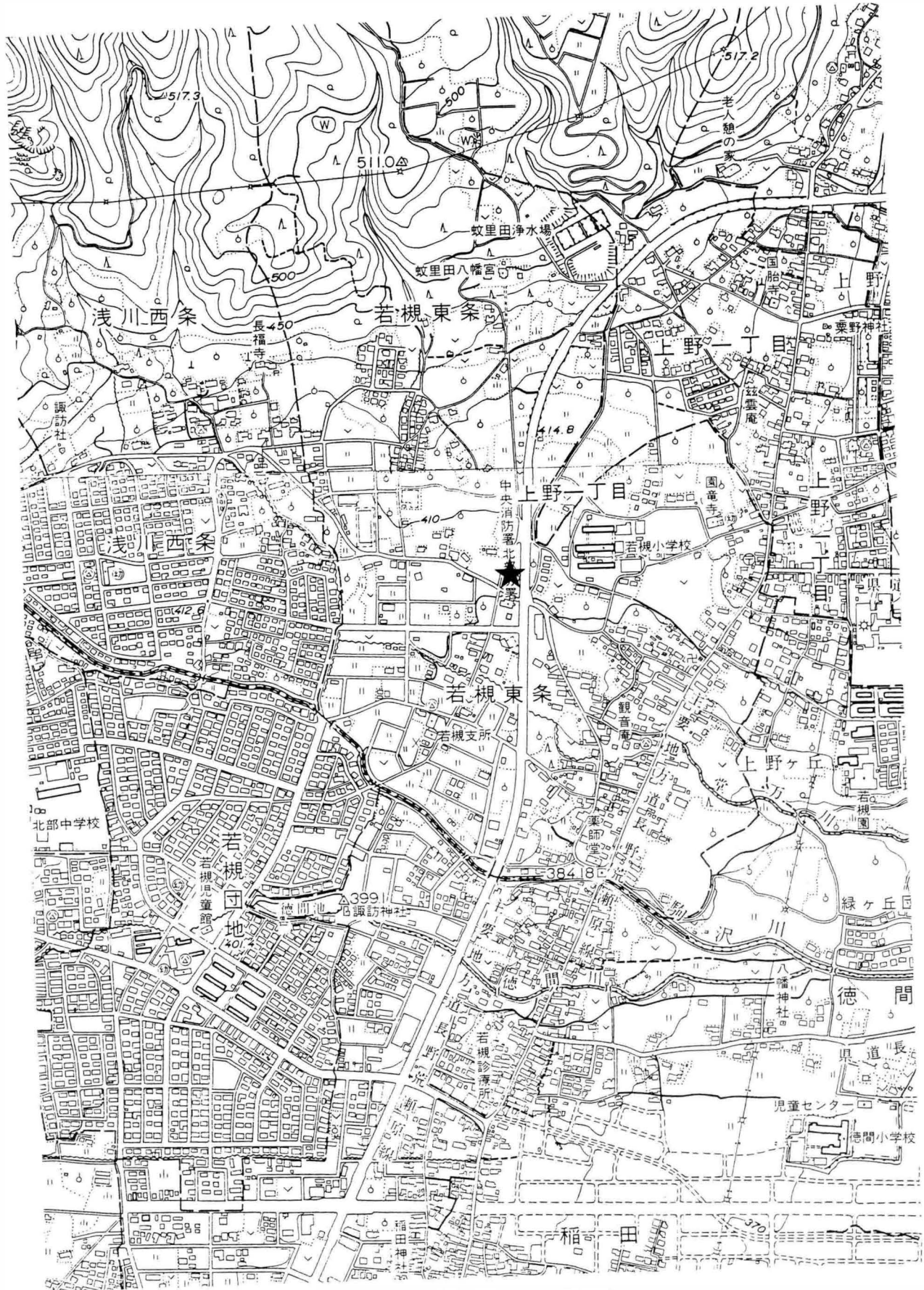


図1　調査地位置図　（1：10,000）

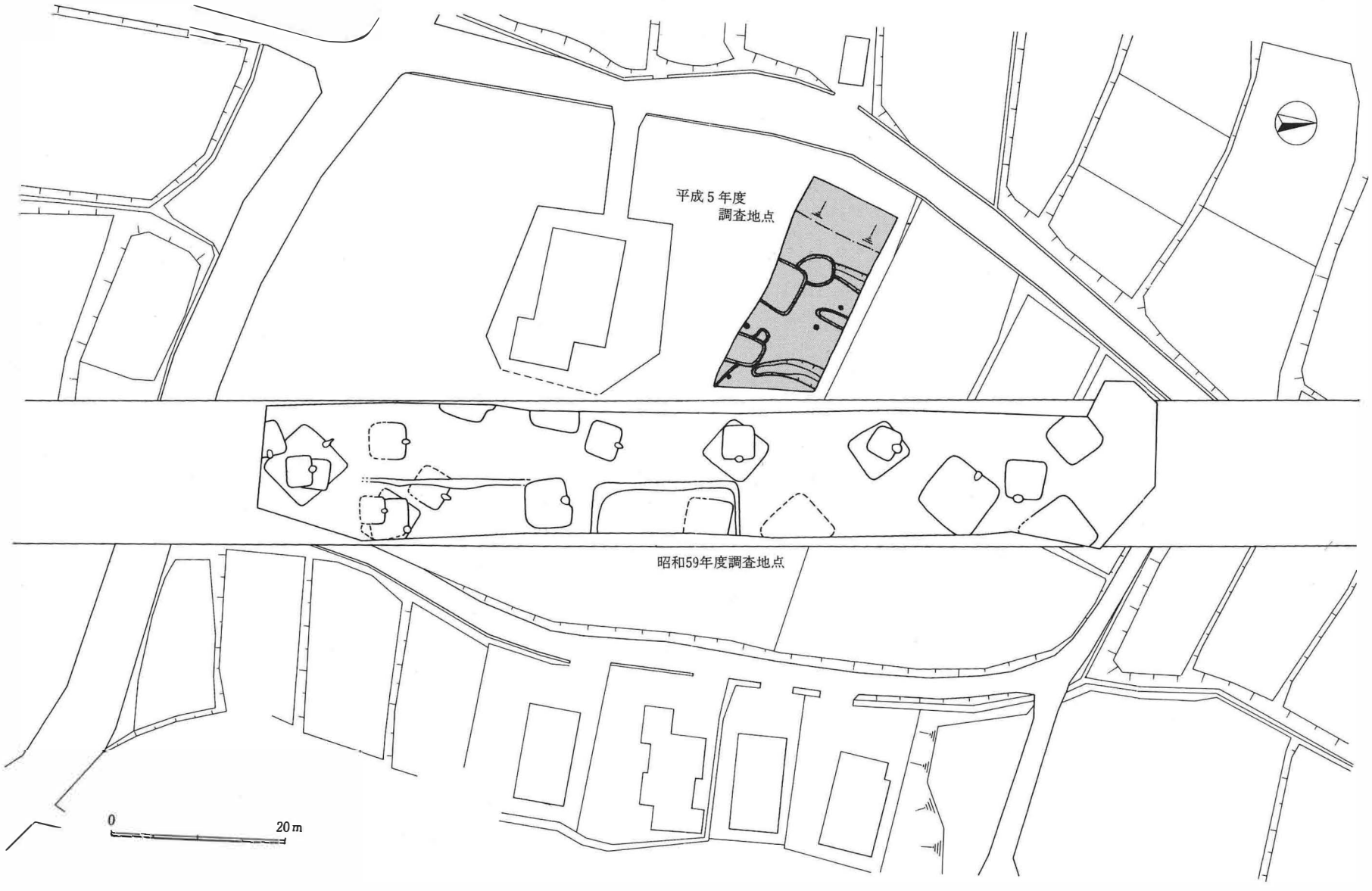


図2　牟礼バイパスB地点遺跡遺構配置図

第2章　調査地周辺の考古学的環境

飯綱山を水源とする浅川は山間部を侵食流下した後、浅川東条地籍の通称浅川原口を谷口として盆地に流入し、東南方向を主軸とした平均斜度1/45を計測する典型的な扇状地を形成する。この扇状地には多くの遺跡が存在し、長野市内でも有数の規模を誇る「浅川扇状地遺跡群」として把握されている。今回の調査地点も浅川扇状地扇央の西端付近に位置し同遺跡群の周知の範囲内に位置する。以下浅川扇状地遺跡群の代表的な遺跡について概説し、周辺の考古学的環境としたい。

旧石器時代は、浅川源流に近い猫又池・大池に遺跡が確認されているが扇状地上にはその存在は確認されていない。

続く縄文時代には、湯谷・赤萱平・苅田・牟礼バイパスA地点・徳間榎木田・浅川端の各遺跡が確認されている。これらはともに駒沢川と、浅川流域に集中する傾向が認められ、正式調査を受けた遺跡としては前者に牟礼バイパスA地点遺跡、後者に浅川端遺跡がある。牟礼バイパスA地点遺跡では前期前葉の住居址1軒、浅川端遺跡では同じく前期前葉の住居址1軒、土壙1基が検出されている。

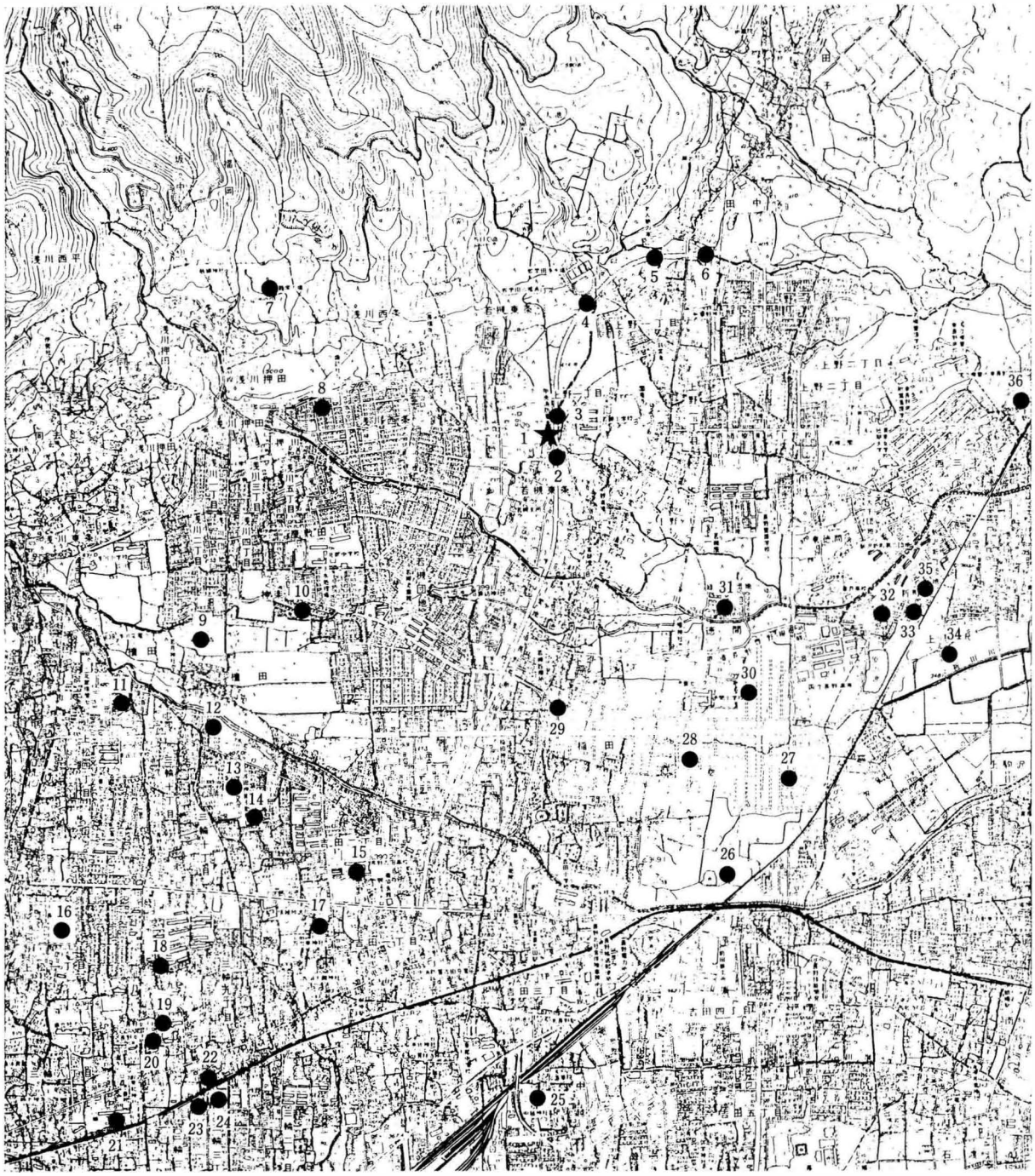
浅川扇状地の本格的な開発は次の弥生時代から始まったものといえる。主要な遺跡には徳間小学校遺跡・二ツ宮遺跡・本堀遺跡・牟礼バイパスD地点遺跡・神楽橋遺跡・浅川端遺跡・吉田高校グランド遺跡等がある。徳間小学校遺跡では中期終末の住居址2軒が検出されている。二ツ宮遺跡・本堀遺跡では中期後半の住居址、溝・土壙等が検出されている。牟礼バイパスD地点遺跡では中期栗林式期の住居址4軒・土壙1基、浅川端遺跡では同時期の住居址2軒、土器集積1が検出されているがともに従来不明瞭であった栗林式前葉のもので、良好な資料といえよう。吉田高校グランド遺跡は後期初頭吉田式土器の標識遺跡で、特に第3次調査では住居址10軒からなる当該期の単一集落が良好な状態で検出されている。また二ツ宮遺跡では吉田高校に継ぐ時期の単一集落が検出されており今後の集落遺跡研究に良好な資料を提示している。後期後半の箱清水式期の遺跡はその存在が希薄であり、少なくとも現状では中期～後期初頭の大規模集落と箱清水式期の大規模集落とが分布上一致することはない。この状況が善光寺平の他の地域にもそのままあてはまるか否かは不明であるが、その背後には生産もしくは生活様式の差異といった根本的な要因が認められる可能性もあり今後の重要な検討課題である。

古墳時代に入り浅川扇状地を特徴付けるのは中期集落の展開であろう。有名な駒沢祭祀遺跡をはじめとして、近年牟礼バイパスB地点遺跡・下宇木遺跡・二ツ宮遺跡など良好な集落遺跡の検出例が増えており、その集中度は善光寺平の中でも特異である。さらにこれらの諸遺跡では陶邑編年I型式2段階～4段階に対応すると考えられる古手の須恵器が比較的集中して出土する傾向が顕著であり、この点も善光寺平の中では特徴的である。犀川以北の盟主的な古墳群である地附山古墳群の保有した多量の須恵器の存在を合わせ考えるとき、当該期における浅川扇状地の重要性がにわかにクローズアップされてこよう。

古墳時代後期～平安時代にかけては比較的継続して集落が展開する。浅川西条遺跡・牟礼バイパスB・C・D地点、三輪遺跡などが代表的な遺跡といえよう。ただし大規模集落が長期間にわたって同一箇所に存在するのではなく、時期ごとに立地を異にしつつ中核的な集落が形成されている可能性が高い。

また平安時代末期にはこの地域に信濃28牧のうちの吉田牧が設けられており、駒弓・桐原牧神社や駒沢などはその名残と考えられ、広大な扇状地は好適な放牧地であったと考えられる。

中世にはこの地域は若槻庄の領域となり、若槻里城をはじめ本堀・押鐘・相ノ木・平林・和田などの城館址が存在する。



1 調査地　2～6 牟礼バイパスA～E地点　7 籠塚古墳　8 浅川西条遺跡　9 檀田遺跡　10 神楽橋遺跡
11 湯谷古墳群　12 浅川端遺跡　13 押鐘遺跡　14 盛伝寺居館址　15 吉田高校グランド遺跡　16 本村東沖遺跡　17 押鐘城址　18 下宇木遺跡　19 相ノ木城址　20 下宇木B遺跡　21～24 三輪遺跡　25 浅川扇状地遺跡群W－9区　26 浅川扇状地遺跡群E－1区　27 二ッ宮遺跡　28 本堀遺跡　29 稲添遺跡　30 柳田遺跡
31 古屋敷遺跡　32、33 駒沢新町遺跡　34 上駒沢遺跡　35 駒沢祭祀遺跡　36 三才田子遺跡

図3　調査地周辺の遺跡

第３章　調査

１　調査概要

調査地周辺の旧地形は、両脇を農業用水路に挟まれる形となった幅50ｍ前後の丘陵状地形を呈していたものと予想され、現在は果樹園として利用されている。

図４に示したとおり、表土の堆積は全般に非常に薄く、平均30cm前後で遺物包含層である黒灰色粘質土に達する。土層序は畑耕作土から漸移的に黄褐色砂礫質土へ移行するものであるが、粘質土、砂礫質が顕著に強まる部分を含み、均質でない状況が観察されている。

本調査地は、昭和59年度に発掘調査が実施された、牟礼バイパスＢ地点遺跡（現・主要地方道長野荒瀬原線）に隣接し、試掘調査の結果からも居住遺構の存在が予想されたが、調査の結果検出された遺構は溝址４・土壙３・柱穴４にすぎない。また検出された遺構の年代も、出土遺物がいずれも断片的なもので明確には成しえないのが実情である。

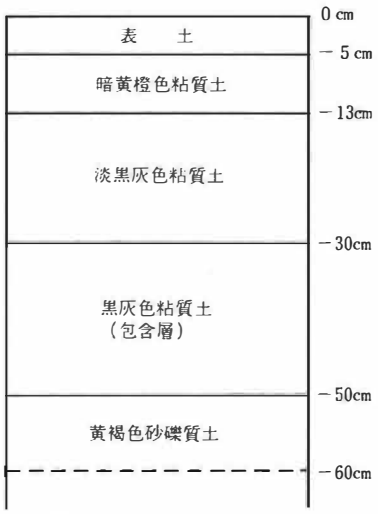


図４　調査地基本土層序

調査地西端にて検出された旧流路による落ち込みと考えられるものの存在よりすれば、本調査地は牟礼バイパスＢ地点遺跡にて検出された古墳時代集落遺跡範囲の西端に位置するものと考えられ、当該期集落の範囲確定の根拠を示す所見が得られた点、重要な調査成果といえよう。

２　遺構と遺物

１号土壙　（図６）

南側は調査区外となるが、一辺4,50ｍほどの隅丸方形土壙である。２号土壙を切って掘り込まれている。当初隅丸方形プランの住居址を想定して調査を進めたが、柱穴・炉址等の明確な内部施設は存在せず土壙と把握するに至った。

検出面からの掘り込みは平均20cm前後であり、壁もなだらかで不明瞭なものである。底面は地山の礫層を掘り込んでいる。土師器小破片を出土しているが時期等詳細は不明である。

２号土壙　（図６）

径3,00ｍほどの方形に近い円形土壙である。４号溝址を切って掘り込まれるが、南側は１号土壙に切られる。検出面からの掘り込みは20cm前後で、壁はなだらかで不明瞭である。土師器小破片を出土しているが時期等詳細は不明である。

３号土壙　（図６）

南側は調査区外となって不明だが、平面プランは短辺3,00ｍほどの不整長方形と考えられる。１号溝址を切って掘り込まれるが北東隅は一部最近の攪乱を受けている。

検出面からの掘り込みは20～25cm前後とやや深く、底面は地山の礫層を掘り抜いているため平坦である。

土師器小破片を出土しているが時期等詳細は不明である。

１号溝址　（図６）

南側は調査区外となり、また大半を３号土壙に切られるために詳細は不明である。北西から南東へと伸びる形態を取る。検出面からの掘り込みは平均15cm前後である。土師器・須恵器小破片を出土しているが時期等詳細は

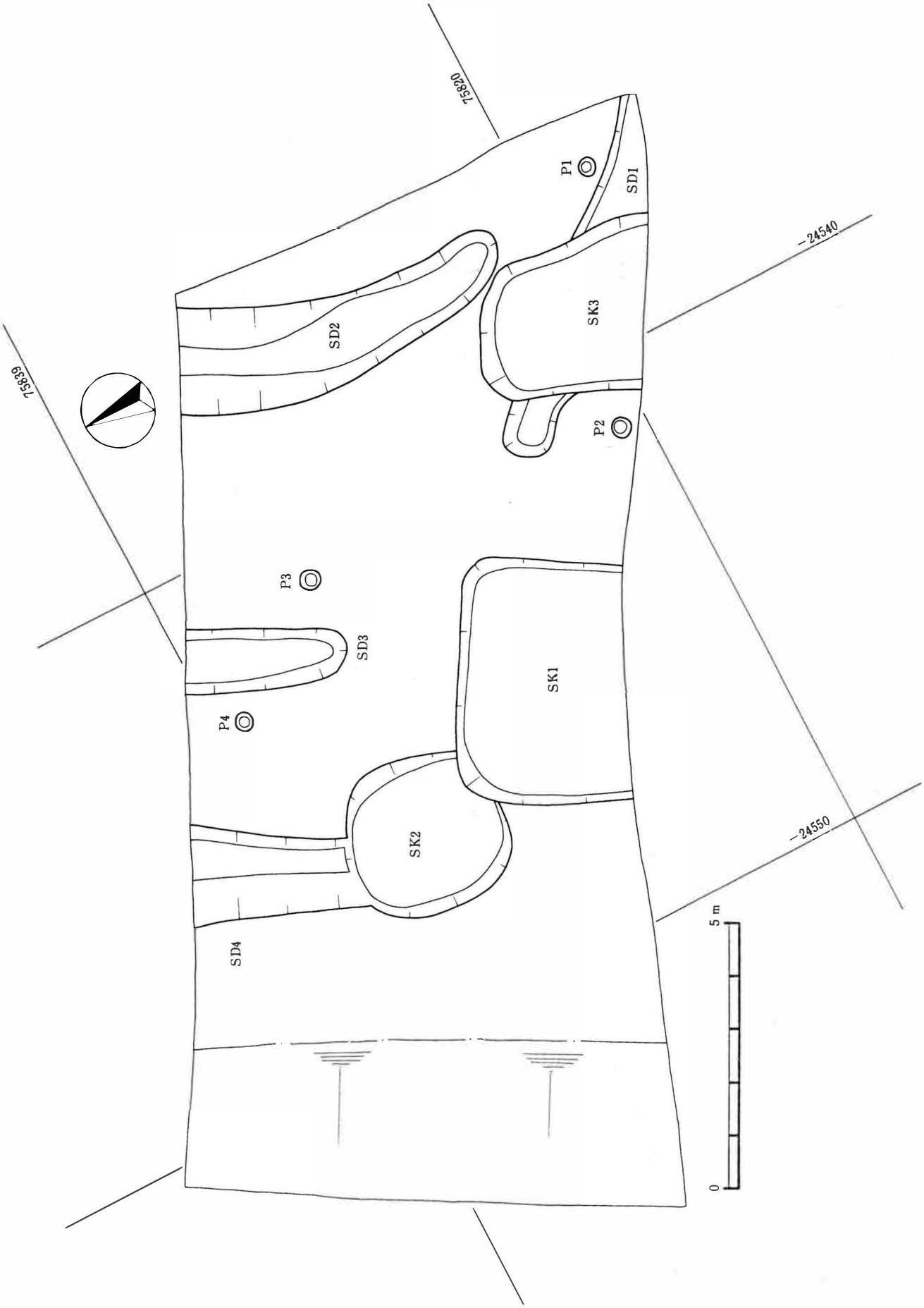


図5　調査地全測図①　（1：100）

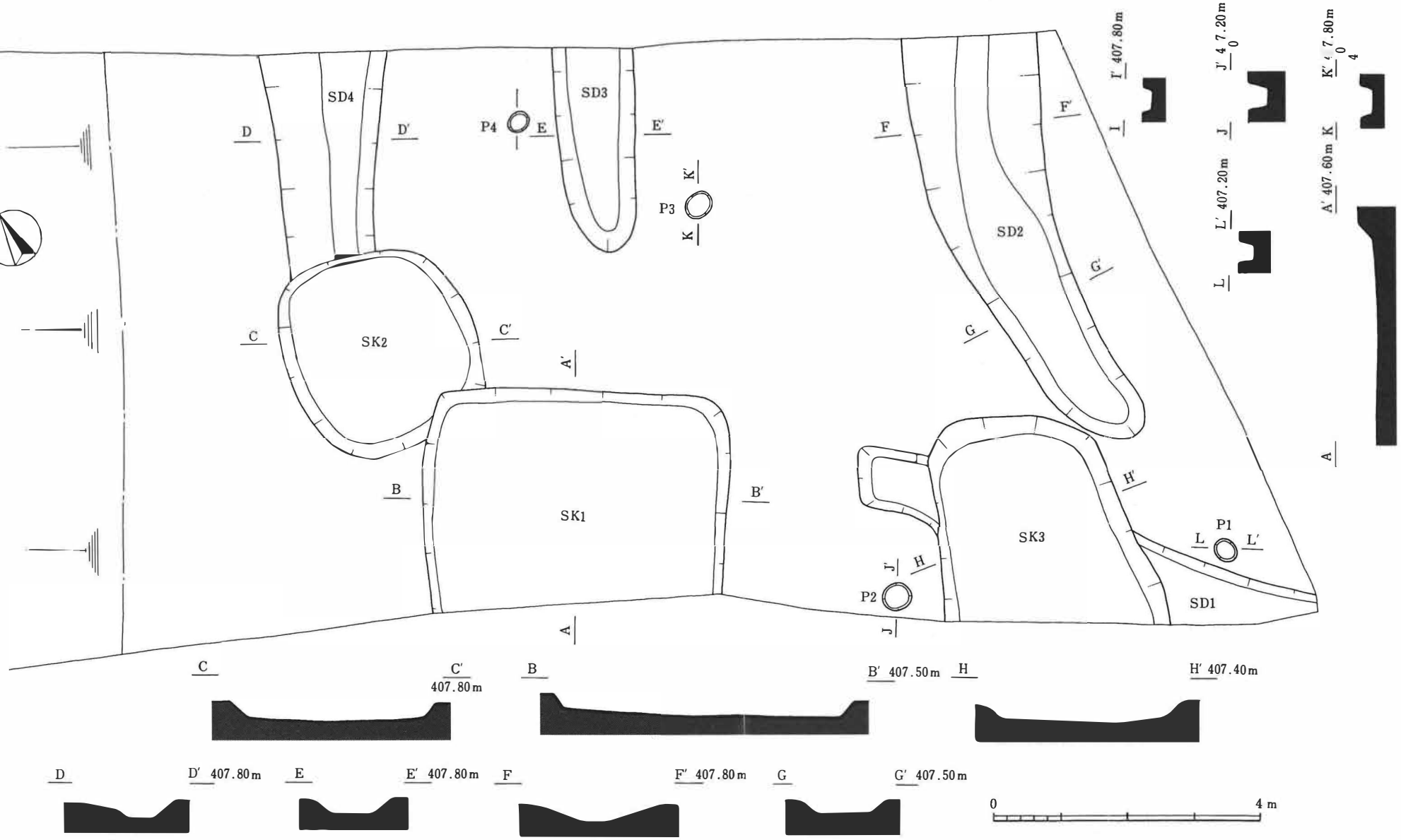

SD4
SD3
SD2
SD1
SK1
SK2
SK3
P1
P2
P3
P4
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
H
H'
I
I' 407.80m
J
J' 407.20m
K
K' 407.80m
L
L' 407.20m
B' 407.50m
H' 407.40m
D' 407.80m
E' 407.80m
F' 407.80m
G' 407.50m
0
4 m

図 6　調査地全測図②

不明である。

2号溝址　（図6）

北側は調査区外となるが、南北方向にやや湾曲しつつ伸びる形態を呈する。検出した範囲での長さは6,30m、幅は最大で2,00mを測る。検出面からの掘り込みは最深で15cm程であり、全体になだらかに掘り込まれている。土師器小破片を出土しているが、時期等詳細は不明である。

3号溝址　（図6）

北側は調査区外となるが、南北方向に直線的に伸びる溝址である。検出した範囲での長さは3,10m、幅は最大で1,20mを測る。検出面からの掘り込みは最深で20cm程である。土師器小破片を出土しているが時期等詳細は不明である。

4号溝址　（図6）

北側は調査区外となり、また南側は2号土壙に切られる。3号溝址同様南北方向に直線的に伸びる形態をとり、検出した範囲での長さは3,30m、幅は最大で1,90mを測る。検出面からの掘り込みは最深で25cm程とやや深い。土師器小破片を出土しているが時期等詳細は不明である。

柱穴　（図6）

この他今回の調査ではP1～P4の4本の柱穴を検出したが何らかの施設に関連すると思われるものはない。規模はいずれも径20cm、深さ25cm前後である。図7に示した土師器坏はP2より出土したもので、口径16cm、残存高4,9cmを測る。外面は比較的丁寧な横方向の篦磨き、内面は刷毛整形後篦磨き・黒色処理される。

旧流路　（図6）

調査区西側全体に旧流路に関係すると考えられる黒色土の落ち込みを検出している。排土置場の関係から全体的な調査は困難であったため、南側の一部にトレンチ調査を実施した。確認しえた範囲では覆土は遺物包含層と同一の黒灰色粘質土一層で、西側に深く落ち込む状況が確認されている。出土遺物はない。

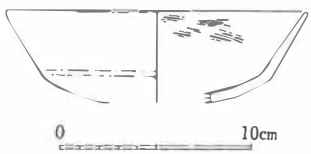
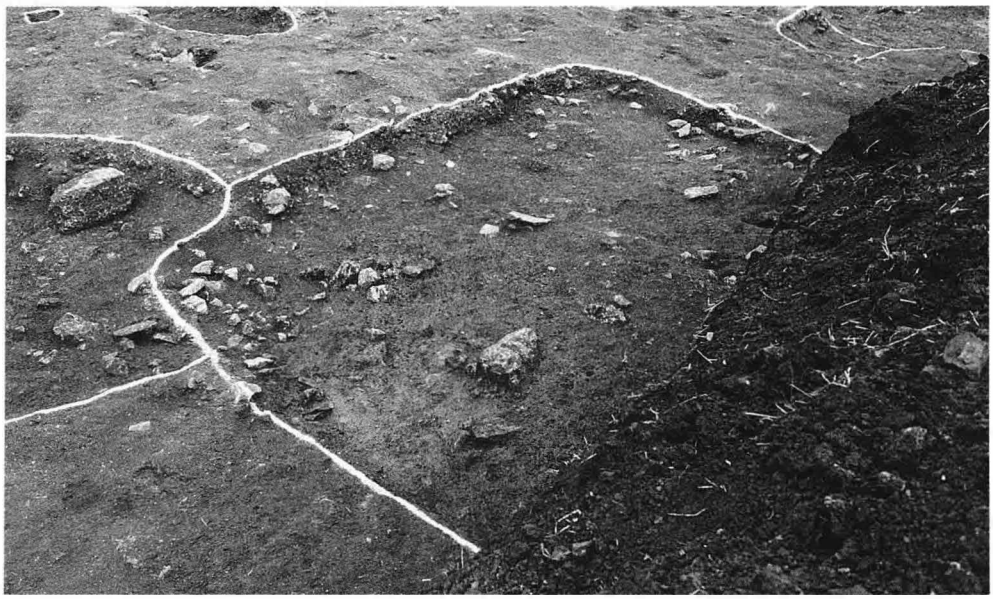


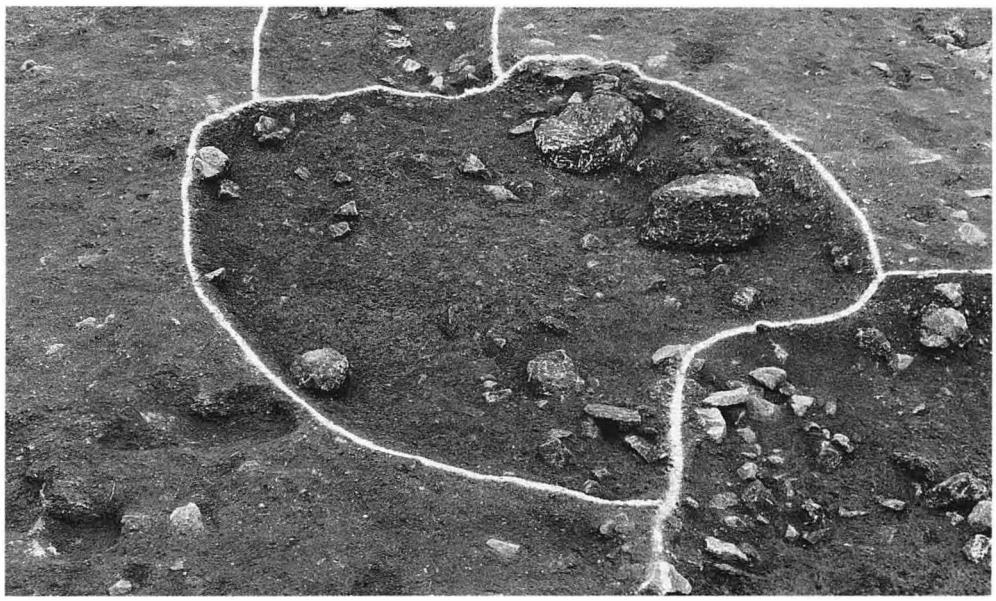
図7　出土土器実測図

調査区全景

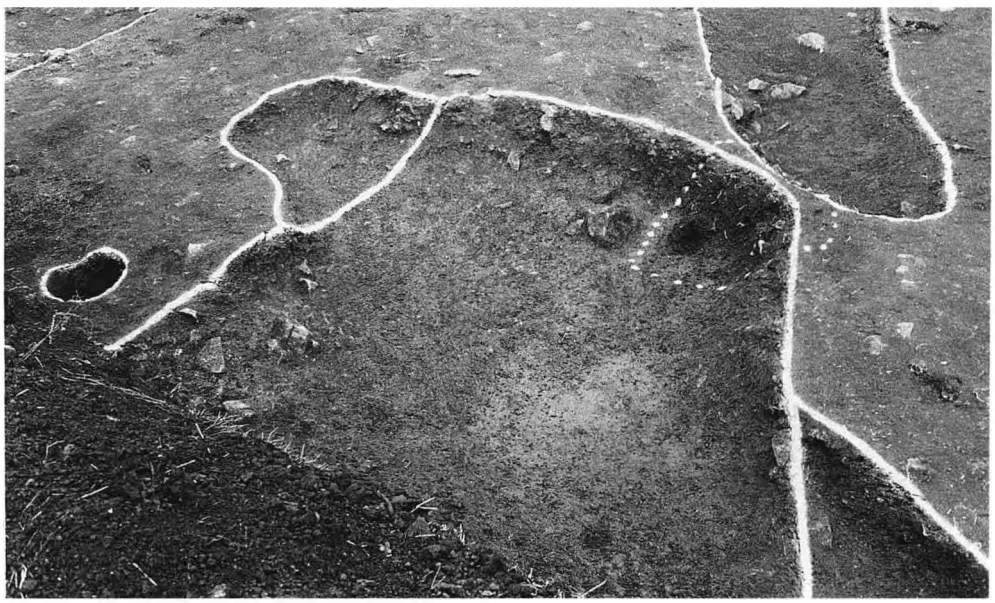
1号土壙



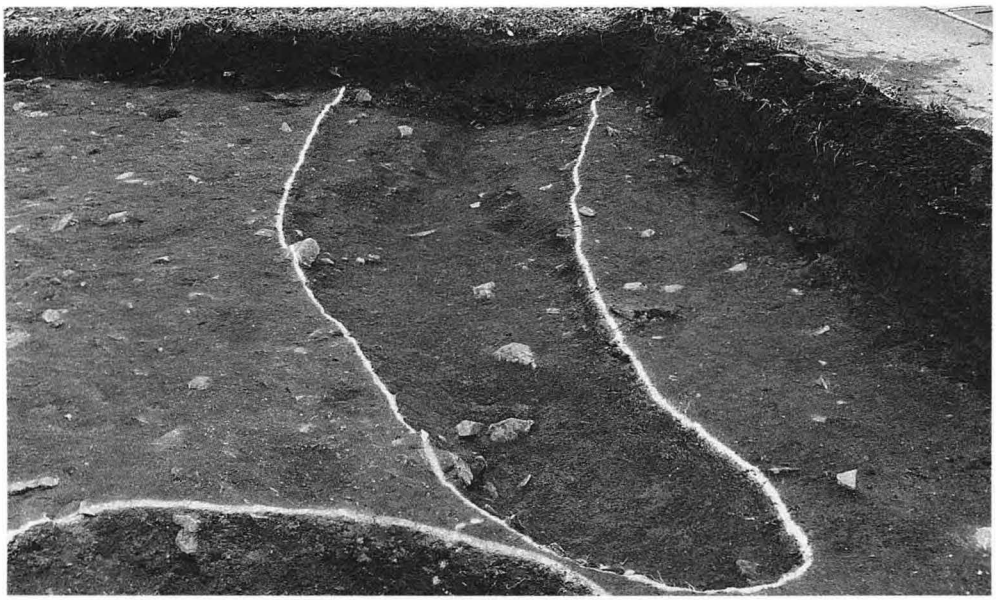
2号土壙



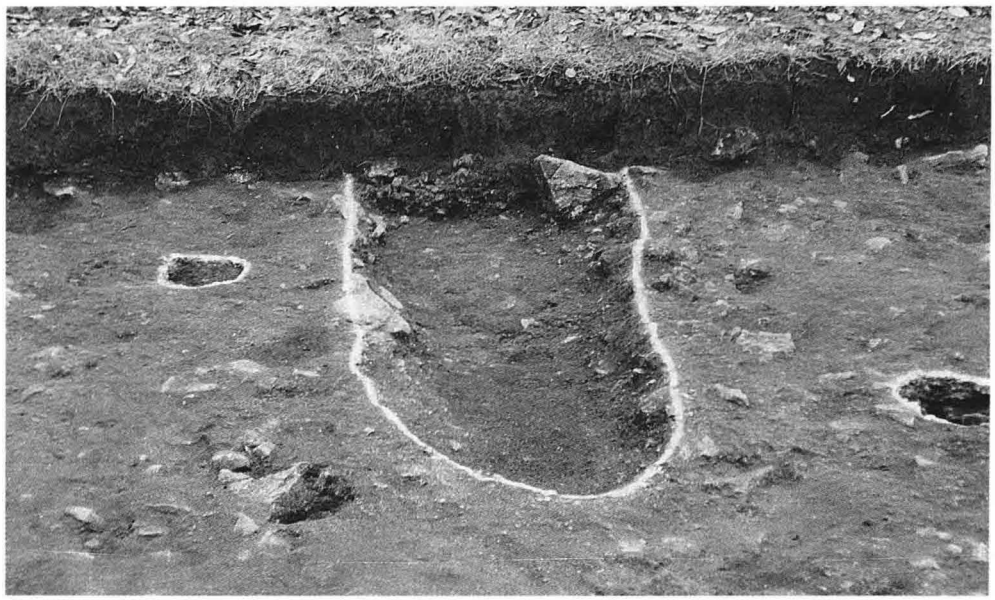
3号土壙



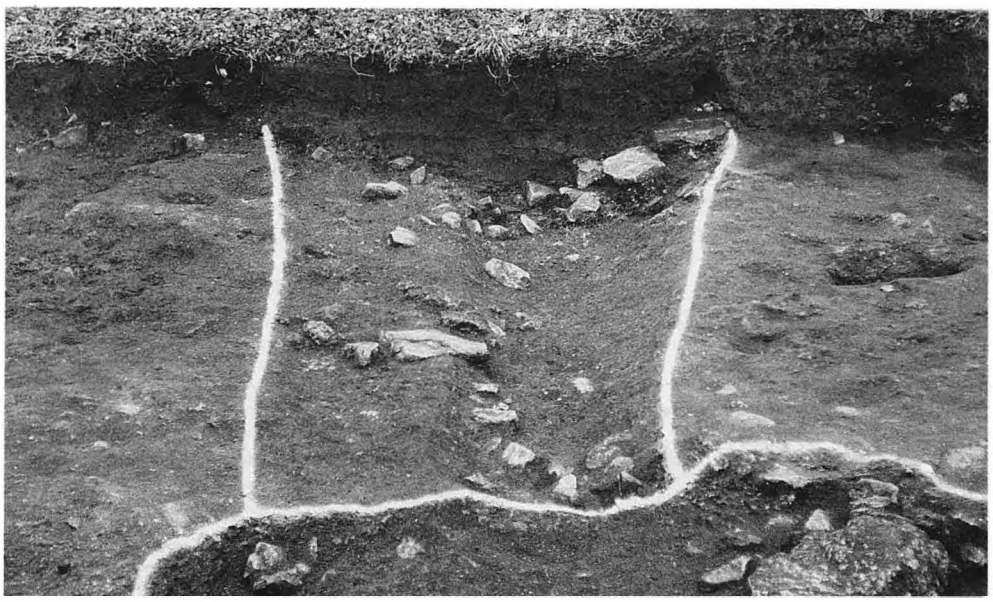
2 号溝址



3 号溝址



4 号溝址



長野市の埋蔵文化財第65集

浅川扇状地遺跡群
―牟礼バイパスB地点(2)―

平成6年3月25日　印刷
平成6年3月31日　発行

編　集　長野市教育委員会
発　行　埋蔵文化財センター
印　刷　日本平版印刷㈱